

東部保健所 別府地域(別府市・杵築市・日出町)感染症情報

令和7年第26週(6月23日～6月29日)

・水痘(みずぼうそう)に注意しましょう

東部保健所別府地域では、水痘の報告数が増加し、警報レベルを上回っています。

水痘は空気感染、飛沫感染や接触感染で感染し、10～21日の潜伏期間の後、発熱やかゆみを伴う発疹がみられます。患者の多くは小児ですが、まれに成人(特に妊婦)が水痘を発症すると重症化するリスクが高くなります。予防には手洗いや患者と物品を共用しないことが大切です。また、水痘はワクチンがありますので、定期予防接種がまだの方は、早めに予防接種を受けましょう。

・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に注意しましょう

東部保健所別府地域では、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加し、警報レベルを上回っています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は飛沫感染や接触感染で感染し、潜伏期間は2～5日です。38度以上の発熱、咽頭痛、倦怠感、嘔吐などがみられます。まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱(しょうこうねつ)」を引き起こすことがあります。予防には患者との濃厚接触を避けること、手洗いの励行や咳エチケットが大切です。

・ヘルパンギーナに注意しましょう

東部保健所別府地域では、ヘルパンギーナの報告数が増加しました。

ヘルパンギーナは経口感染、接触感染、飛沫感染で感染し、潜伏期間は2～4日です。発熱、のどの痛みや水疱などの症状が現れる「夏かぜ」の一種で、乳幼児に多い感染症です。予防には手洗いやうがい大切です。また、発症後2～4週間は便からウイルスが排せつされるため、おむつ交換時は排せつ物の適切に処理し、石けんでしっかりと手洗いをしてください。

(第26週)

疾患名 年齢	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻しん(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
0歳						1.83			0.17	0.17	0.33		0.17				
1～3歳			0.33	0.67	2.00	3.67	0.33	0.33		1.17	2.83	0.17					
4～6歳	0.10	0.10			3.33	2.17	0.83				0.67	0.17					
7～9歳	0.10			0.17	2.17	2.33	0.67						0.17				
10～14歳					0.50	1.17	0.33		0.17				0.17			5	
15～19歳	0.20	0.20				0.17										2	
20歳以上	0.20	1.00			0.50												
今週	0.60	1.30	0.33	0.83	8.50	11.33	2.17	0.33	0.33	1.33	3.83	0.33	0.50			7	
70歳以上(再掲)		0.40															
先週	0.50	1.60		1.17	4.00	14.00	1.67	0.17	0.67	1.33	1.50	0.17	0.33			14	

指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点あたりに換算して計上しています。
(定点医療機関数:インフルエンザ/COVID-19定点 10、小児科定点 6)

疾患ごとの警報・注意報の基準値

※単位は定点あたり報告数

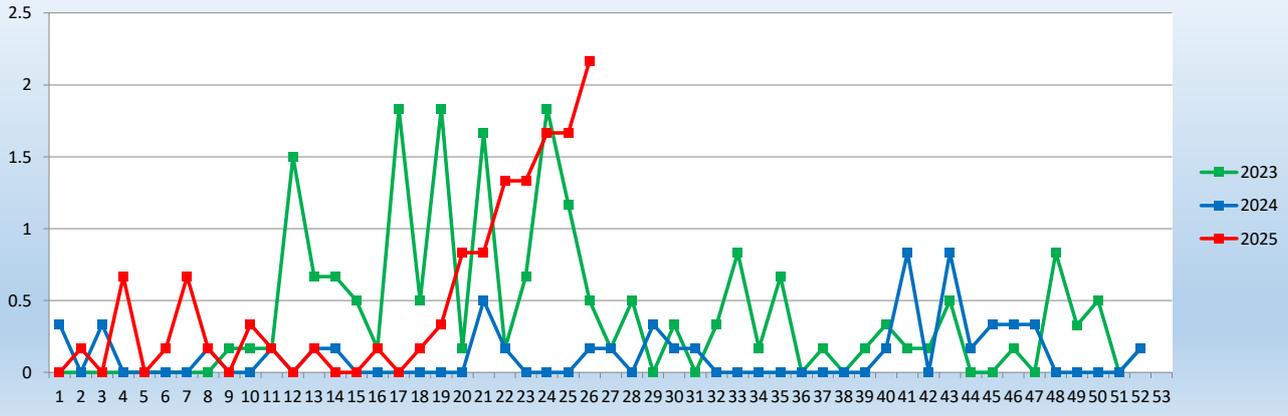
	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30.0	10.0	10
咽頭結膜熱	3.0	1.0	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	-
感染性胃腸炎	20.0	12.0	-
水痘	2.0	1.0	1
手足口病	5.0	2.0	-
伝染性紅斑	2.0	1.0	-
ヘルパンギーナ	6.0	2.0	-
流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3
急性出血性結膜炎	1.0	0.1	-
流行性角結膜炎	8.0	4.0	-

警報レベル:大きな流行が発生または継続していると疑われることを指します。

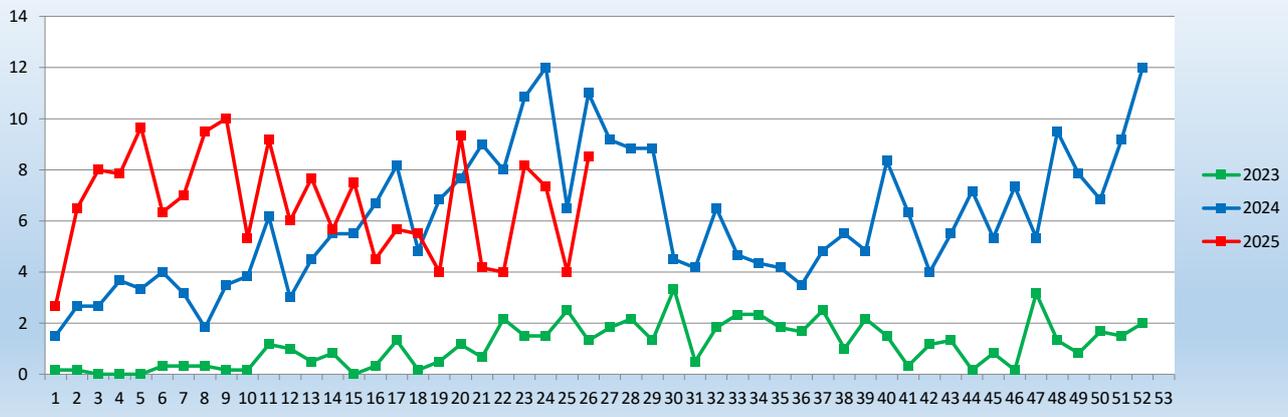
注意報レベル:流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

過去3年間の発生動向(別府地域)

定点当たり報告数 水痘



定点当たり報告数 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



定点当たり報告数 ヘルパンギーナ

